

二年近く続いているコロナ禍も、ようやく「沈静化」という表現が見合う状況となり、秋の学校行事にも子どもたちの笑顔が戻ってきました。中でも10月24日(日)の南小まつりでは、各会場で子どもたちがうれしそうに地域の方々と交流する姿を見ながら、お忙しい中御協力いただいた皆さんに感謝の気持ちで一杯になりました。

また、5・6年生が参加したラジオの公開録音も貴重な体験となり、小林市や南小のPRにも一役買いました。さらに、10月30日(土)には、6年生の思い出づくりのために学校のグラウンドで気球の搭乗体験が開かれました。PTAやまちづくり協議会の皆様のおかげです。

良いことや楽しいことは、いくらかでも繋がりがあってほしいものです。よし、次のアイデアを練りますかっ！

物事の本質はよく見ると

少し前の話ですが、東京の町田市で小学校6年生の女の子が自ら命を絶つという悲しい事件が起きました。学校で配付されたタブレット端末を使用したSNS上の書き込みが原因の一つとされたことで、マスコミが大きく取り上げました。

まず、マスコミの標的となったのはタブレット配付。新型コロナウイルス感染拡大の中、自宅に留まる子ども達への教育の保障のために前倒しされた施策でしたが、準備(検証)が不足していたことは確かです。

次の標的が学校。この小学校はICT推進のモデル校で、いち早くタブレットの扱いに慣れさせようと取扱の制限を最小限に留めた校長の方針が非難的になりました。それまで各方面で「制限など掛けたらタブレットの機能が生かされない。」と主張していた大学の教授も黙ることになりました。

しかし、これでは論点が外れすぎではないでしょうか。我が子を失った親御さんにとっても、必要のない分析です。

：では、今回は早めに結論を申しあげましょう。

「ICTを含むメディアから伝わる情報を、確認もせずには『新鮮で正しい意見だ』と思い込んで飛びつき、得意げに広げるようでは、これからの時代には生きていけません。」

今回も、タブレットの弊害が問題の本質ではありません。受け止めなければいけないのは、だれがやったか分からない卑劣な方法で相手を落とし込めるような心をもった子ども(集団)が育ってしまったという恐怖と見逃した大人の責任です。

大人が子どもの頃に経験していない環境(ICT)の中で、子どもに何が起きているのかを議論すべきでしょう。

(いじめに関する見解は、今回は置いておきます)

本当かどうか分からないような情報が次々と流され、人々の恐怖や怒りをあおって民衆を分断し、時には、人命まで奪う…。アメリカの大統領選挙では実際にそのようなことが起こりました。

「メディア」ということは既に古くさくなり、四大メディア(新聞、雑誌、テレビ、ラジオ)が保っていた「真実を伝える」という絶対的なモラルさえ危うく感じます。

今は流れている情報が事実かどうか分からない、やりとりしている相手の年齢や性別さえ疑わしい時代です。そして、子どもも、そのような環境にさらされています。

誤った情報は、誤った判断と行動を引き起こします。「常に本質を見極めようとする姿勢」こそ、時代に求められる最も大切な人間らしさなのかもしれません。

次々に入賞

前号裏面でも紹介しましたが、今、本年度の作品コンクールの結果が次々に届き、たくさん子どもたちがすばらしい成績を残しています。子どもたちの豊かな感受性や表現力が結果として認められていることを大変うれしく思います。

第 31 回黒木清次文学碑祭入賞作品

須木村出身で作家、作詞家として作品を残し、宮崎日日新聞社社長、FM 宮崎社長も務めた 黒木清次氏 の功績をたたえ、毎年文学碑祭が行われています。その文学碑祭で募集される詩のコンクールで、南小学校の2人が「小林市長賞」と「小林市教育長賞」を受賞しました。黒木清次氏は、たくさんの学校の校歌の作詞もされ、本校の校歌もそのひとつです。

4つしかない賞の中で、2つも受賞できたのは快挙です。また、冊子に掲載される優秀作品(全20点)にも1点選出されています。紙面の関係で以下に入賞の2点を紹介します。

3点とも素直で子どもらしく、しかも、力強さを備えた作品です。

小林市長賞

五年 松本万央



たちあおい

たちあおいが

さきだと梅雨の始まる合図

天にとどく

高くまっすぐ

色あざやかに

たちあおい

太陽にのぼる

高くまっすぐ

色あざやかに

たちあおい

たちあおいが

空にとどく

夏がはじまる

小林市教育長賞

六年 久保田姫彩



しょう来のゆめ

わたしのしょう来の夢が

かなえられるように

そのために毎日、毎日いろんなことを

聞いている

わたしのお母さんが看護師だから

いろんなことを知っている

注射の仕方や

けがをしたときの手当の仕方

こまっている人への対応の仕方など

たくさん教えてくれる

お母さんは職場でいろんな人に

たよりにされている

だからわたしもお母さんみたいに

いろんな人にたよりにされる

看護師になりたい

優秀作品

六年 園田真彩 「生きるとは」

